

【めむろ未来ミーティング日程 14】

令和 2 年 1 月 18 日 (土)

13:30～14:56

めむろ一ど午後

■参加者 20人

■芽室町 町長、副町長、教育長、総務課長、企画
財政課長

■記 録 矢野

■対応・検討が必要な事項

なし

- 1 開会
- 2 副町長挨拶
- 3 町からの説明事項
『公共施設の配置構想』
- 4 意見交換

【意見】

2点について質問する。

一つ目が車両センター移転に係る基本構想。

車両センターの移転については、過去からさまざまな場所が議論されてきたが廃材などの懸念もあり、その後の利活用について心配な部分があると懸念しているが。

二つ目が公文書管理及び事務取扱規定。

公開質問状や審査請求などを申請しているが、速やかに審査をお願いしたい。また、住民監査請求についても同様である。

【副町長】

一つ目について回答する。

ご指摘のとおり、車両センターは住宅地の中に準

工業系の施設があるのは好ましくないとの認識ではあるが移転先は悩ましい課題である。現在は新たな工業団地の中に移転したいとの考えはあるが、詳細な場所や規模は未定であることから構想という段階である。新たな工業団地には都市計画法や農地法などのクリアすべき法律の課題はあるが各方面で準備を進めている状況である。

現在の車両センターの移転後については、土地の調査を実施したうえでどのような利活用が望ましいかを協議することになる。

【企画財政課長】

二つ目の公文書管理及び事務取扱規定について。

今まででもそして今後においても法律、条令、各種規則などに基づいて適切な事務に努めていく。

【意見】

都市計画税について。

導入された時から不公平な税であると感じている。この税の導入にあたり、町民から意見募集をしていた記録を読み返すと固定資産をもっていない方でもマンションのオーナーから税をいただくから納めたことになるという記載もあった。私自身も町に問い合わせたら、同様の回答があった。

しかし、公営住宅の方はそのような形にはなっていない。つまり、すべての人ではないと思うし、導入されて10数年経つが釈然としていない。

【町長】

固定資産に対しての税であり、賃借されている方とは異質のものである。

都市計画税は当初 0.3%まで引き上げるということでスタートしたわけだが、現在は 0.1%のままである。都市計画税は目的税であり、下水道の起債の財源に充てている。

現状でも下水道の起債の償還はあることから貴重な財源として今後も活用させていただくという考えである。

【意見】

支払わないということではない。マンションのオーナーから頂くとなっているが公営住宅の入居者のオーナーは町なので頂けないことに不公平感があると思う。

【町長】

民間マンションのオーナーは資産という形であり公営住宅とは同じ性質ではない。

都市計画性は都市計画区域という場所に課税できるもので帯広市や近郊3町と尻尾町など限定した場所であり、この財源は目的税として都市計画に係る費用に充てていく。

【意見】

市街地に住む人は固定資産の有無にかかわらず恩恵を受けている訳で、それを固定資産のもっている人だけに課税するのは不公平である。

広い意味で多くの人が負担できるような方法を考えてほしい。

【町長】

財政状況も厳しい。税込だけがすべてではないので財政の健全化を図りながら収入を増やしていく方法を模索したい。

【意見】

町内会には自治振興報償費して一戸あたり700円をいただいているが、社会福祉協議会など支援している金額は600円程度であり、その事務負担もあるので役場から支出することは検討してほしい。

【企画財政課長】

町は各町内会には町内会・行政区毎に18,000円プラス一戸あたり700円を世帯数の数を自治振興報償費として支出している。

それとは別に各町内会の判断で社会福祉協議会や消防後援会などに支援していると聞いている。よって、町がそれらの団体に支出することはできない。

しかし、自治振興報償費の金額自体が少なく、活動が停滞している町内会があるという課題は町内会

連合会からも相談を受けていることから引き続き検討したい。

【意見】

少子高齢化が進み、高齢者の交通事故は多いのは新聞等でも連日のように報道されている。帯広市では70歳以上の高齢者を対象にバスの無料券を配布しているが、芽室町は65歳以上に免許返納者だけが一年間の無料券を配布しているがその支援を拡充できないものか。

また、人口減少が著しい中、芽室町の人口も減り続けているので東めむろ地区の再開発をすれば人口も増えるし、それに伴う税金も増えるし、活気ある町になると思うが。

最後に庁舎建設しているので駐車場不足しているが、公共駐車場に公用車が泊めてあって一般利用者の台数が少ない。新庁舎ができるまで我慢するほかないのか。

【企画財政課長】

高齢者の交通の件。帯広市の取り組みは承知している。ご指摘のとおり、これから増加する高齢者への交通は重要課題と認識しているため、じゃがバスの無料期間の延長がいいのか、現在の利用料金100円がいいのかなどを含めて総合的に考えていきたい。

【副町長】

住宅地の拡大の件。日本の人口が減少していて、十勝管内も上士幌町以外は減少している中で住宅地のエリア拡大の許可が下りない状況である。

町内の人口の推移をお知らせしたい。一年間で町内の人口は約200人減少し、出生と死亡の差が大きいことになる。また、将来の見通しを言うと今年の新成人は207人、中学卒業者160人、一年間に生まれた赤ちゃん100人を切ってしまった。小学校クラス35人なので町内には3学級で足りてしまう計算になっていることをお伝えしたい。

役場駐車場の話だが、役場北西側の公共駐車場に公用車を停車していることについてはご不便をかけ

て申し訳ない。来年の春以降に現庁舎が取り壊した際には速やかに利用できるようにしたい。

また、現在の消防車前の駐車場については白線の幅が狭くご迷惑をおかけしているが、白線の引き直しなどを検討したいと考えているので、ご理解とご協力をお願いしたい。

【町長】

高齢者の足の確保の問題は、これからの政策の重要な部分だと理解している。特に農村部の方からも意見もある。スクールバスと同じように農村部にバスを走らせることが理想ではあるが、それには費用が膨大にかかるために難しいと思っている。

これからはスマートフォンやパソコンでデジタルを活用して予約を集めて効率的な路線でタクシーなどを走行する手法などを含めて、新たな仕組みで交通対策を解決できるように努力したい。

じゃがバスについては、車2台で双方向に走行するのが理想であるが、現在の利用人数では厳しい状況なのでたくさんの方が利用してほしい。

人口減少社会の中で芽室町だけ人口を増やしていくことは現実的ではないことから、現在住んでいる方が生き生き暮らし続けることができるようになってほしい。芽室町に住んでいなくても芽室町を応援したくなり興味を持てるような関係人口、そして、実際に芽室町に行きたくなるような交流人口、最終的には芽室町に住みたくなるような移住定住に繋がれば理想である。

【意見】

最初の説明で聞き逃したのでピウカ親水公園について聞きたい。

【企画財政課長】

ピウカ親水公園は、国道から2丁目通りまでのピウカ川沿いに公園を作ろうとするものである。

現在、北海道は平成28年の台風被害を受けたピウカ川の川幅を広げたりなどの工事を行い、災害に強い川にしていることから、それに合わせて公園を整備していこうと考え、令和3年度から工事着工を

予定しているが最終完成は北海道との協議によるので未定ではあるが、完成した部分から供用開始したいと思っている。

【町長】

このピウカ親水公園の遊具などは新興住宅街の近くに遊具や小さな噴水などを設置したいと思っている。2丁目付近まで約2キロと広がっているのはサイクリングやジョギングができるように一部河川敷にもいけるような公園にしたい。

【意見】

地域公共施設について。かしわ福祉館を利用させてもらっている。悩みは管理人。非常に高齢に伴い、辞めたいとの申し出があった。対象の4つの町内会に管理人募集の案内をしたが応募はなかった。今後どうしようかと困っている。

単に管理人と言っても福祉館はボイラーで暖房を維持しているので、燃焼の確認など手間がかかっている実態があるので管理人の処遇改善を考えてほしい。

また、新たに建てる防災倉庫は単に避難物資や備品だけのものではないと思う。それ以外の機能や役割などを教えていただきたい。

【企画財政課長】

地域福祉館の件。市街地の福祉館は古い建物が多く、ひばり福祉館が昭和49年建設、大和福祉館が昭和51年建設、弥生福祉館が昭和52年建設、かしわ福祉館が昭和53年建設など築40数を超えている。市街地の福祉館は半径500メートルに一つという構想をもって進めている。現在の福祉館の数を考えた場合にはある程度の統廃合も視野に入れる必要があると思っている。これからのことについては、今年中に具体的な案をお示しして、改めて協議や意見交換を行うことになる。

管理人の件。この管理人の課題は十分認識している。現在の管理人はご近所に住む方が長い期間にわたって管理人をされている実態はかしわ福祉館だけではなく、多くの福祉館でも同じ課題があることが

ら、今のやり方がいいのか、別の方法がないのか内部で検討している最中である。また、かしわ福祉館を利用するうえで不具合や故障などがあれば、必要に応じて修理するので担当課までご連絡願いたい。

防災倉庫の件。防災備蓄品がかしわ福祉館やふれあい交流館、勤労青少年ホームや中央公民館などさまざまな場所に分散して保管している。それ以外にも災害時には支援物資が全国から届けられるため、その保管場所が手狭であるため、それらを集約したいと考えたうえで防災倉庫を作るものである。また、その一部を消防署員の訓練できる壁面としても活用する予定。

【意見】

今日の参加者は若者が少なく、特に女性が少ないなど感じている。しかし、これが現実であろうと思う。

今の課題や数年先の解決方法を考えてしまいがちになるが、もっと先の20年30年先の未来の話が聞ければいいと思うが。

【町長】

参加者の年齢層が高いことは以前から指摘を受けることもあった。若い方にアプローチできる方法を模索したい。選挙の投票率や住民自治ということに無関心な若年者が多いことには危機感をもっている。

20年先・30年先のビジョンという話だが、このスピード感の早い世の中で見通すことは非常に難しいことだが、私は芽室町に住んでいる町民が生き生き暮らして、誇りが持てる町にしたいと思っている。そのための環境づくりや基盤整備などさまざまなことに挑戦したい。

政治的なモットーとして「対話・信頼・行動」を掲げている。信頼関係をどれだけ住民の方と築けたうえでまちづくりを進めていきたいし、当然ながら行政だけではなく企業・団体・議会など同じ方向を向いて歩みたいと思っている。

【意見】

資料に記載しているふれあいの居場所とは何か

【企画財政課長】

子どもの施設を作る時には高齢者や障がい者とのふれあいを考えており、付近の施設を含めてのゾーニングの名称である。例えば、芽室小学校の近くには子どもセンター・発達支援センター・リスドン・オークルを含めてのエリアになる。

【意見】

今言った場所は川の付近であり低い位置にある。今後施設を建設するなら違う場所が望ましいと思っているがいかかがか。

【町長】

子どもに関する施設、すなわちハードは整ったと認識している。ご存じのようにひだまり保育所や子どもセンター、発達支援センターなどは新しい施設である。今後は保育士などの人的な充実を図ることや子どもたちへの副食費の支援、新年度には給食費の材料費の増加分などの支援ができないか検討しているところであり、保護者負担を上げない形で内容の充実を図りたい。

建物については、今後建設する予定はないが確かに低い場所にはあるが、小学校に隣接している利便性もあることと理解願いたい。

【意見】

アンダーバスの停止線を下げしてほしい。トラックを運転しているが曲がり切れないことがある。

移住などの外からの人を呼び込みたいという話があったが、通信手段の整備が不可欠だと思うし、5Gなどの見通しはあるのか。

【町長】

停止線の件は道道なので担当課を通じて、北海道建設管理部に伝えたい。

次に通信手段の充実、ほかの地域でも話題になった。基盤整備が外部の方を呼び込むには不可欠であることは認識している。先日、通信事業者との話では町の大動脈までは事業者負担で行い、支線から

は自己負担でとの話があったので今後も粘り強く交渉していきたい。



14:56 終了